

安全って、本当ですか??

武田薬品湘南新研究所を問う!

(発行): 武田問題対策連絡会



人口密集地に急ピッチで工事が進められている武田薬品研究所(北側から9/22小林撮影)

藤沢市を相手に住民訴訟おこす <傍聴をお願いします!!>

武田研究所排水問題

10月19日(月) 午後3時から横浜地裁で第1回目の口頭弁論が行われる事が決まった。

9月8日、武田薬品研究所の排水を藤沢市の下水道に排出する問題で、住民監査請求を訴えていた申請人9名が、藤沢市を相手に下水本管工事の予算執行停止を求めて住民訴訟を起こした。昭和53年、藤沢市が武田薬品工場排水を大清水下水道に受けられないとの協定に違反し危険な創薬研究、バイオ排水の受入を認めたことに対し、取り止めの訴えを起こしたものである。

裁判で争われる主な争点は、

- 、武田の排水受入が、完全に協定違反であること
- 、市は、武田と同じ協定を市内の企業50社とも結んでおり、武田の排水を受けられれば、市が各社と結んだ公害協定を骨抜きにするものであること
- 、武田の排水は、工場排水より、もっと危険な多種多様の創薬、バイオ、遺伝子組み換え、動物実験排水であること等々である。

なお、武田研究所排水問題では、住民訴訟の他、県の公害審査会への公害調停(10月13日第2回調停) 県の開発審査会に武田の開発許可取消の訴え、等も起こしている。こうした裁判や調停、不服審査を通じて、現在、一方的に建設が進められている武田研究所建設を差し止めさせ、排水、排気、動物実験等に関わる市民要求の実現を目指してゆきたい。

(共同代表 小林麻須男)

実験動物焼却に関する要望書を鎌倉市長に提出

9月24日、鎌倉市の周辺住民らが要望書を提出した。

武田薬品の新研究所計画によれば、敷地内に設置が進められている実験動物死骸を専用に焼却する炉(計2基)の能力は、1日に6時間操業で1.8トン/日であり、(1時間当たり100m³の都市ガスを用い、動物を1時間に300kg処分する。)体重60kgの大人に換算すると30人/日に見合う焼却能力であって、人口数十万人の都市が必要とする火葬場の炉能力に相当するものと推定される。

多くの市民が、動物実験が行われ、多量の動物が焼却処分されることを精神的な苦痛と受け止めている。

また、子どもらへ精神衛生上の悪影響と、焼却施設の煙突から出る排気を空気と共に吸い続け、体内に蓄積されたら、子どもらの生命をやがて脅かすのではないかという不安を感じている。

このような「動物の大規模な焼却施設」に、人の火葬場の立地条件「その境界線と人家、学校等との最短距離が300m」以上であるべきとする神奈川県条例や、「公衆衛生の見地」(関係法令)に準じ、何らかの立地規制と衛生上の規制が求められるべきと考える。

鎌倉市は、本件動物焼却施設の設置問題について慎重な上にも慎重なご検討をするよう。また、武田薬品に対して、計画取り消しに向けた行政指導を求める。 近隣住民(連絡先 湘南の環境を守る会 福岡秀治)

公害審査会へ署名4917筆提出！

武田研究所建設問題は「医薬品研究所大気汚染被害防止等調停申請事件」(平成21年(調)第3号事件)として、神奈川県公害審査会で取り上げられ、7月27日、第1回調停が開催されました。審査会会長と武田薬品社長宛に、人口密集地に「バイオ公害対策」不十分として、建設中止と計画見直しを求めて近隣内外から集めた署名2557筆を、審査会会長に提出しました。武田薬品へは、同筆だけ集まっていることを報告しました。審査会委員も武田薬品側も積み上げられた署名に注目しました。続いて10月の第2回調停には、2360筆の署名を追加提出し、合計4917筆になり、多くの人たちが不安を感じ、安全対策を求めている事を訴えました。皆様のご協力に大変感謝し、引き続き、署名のご協力をお願い致します。(共同代表 青柳節子)

武田問題なんでも相談窓口を開設

武田薬品新研究所に関する不安の声が市民から当会に寄せられております。出来る限りご質問に対してお答えしたいと思っておりますので、氏名と連絡先を明記した上で、下記にご連絡下さい。

(藤沢)

FAX: 0466-26-0242 (國枝)

携帯: 090-6317-5547 (小林)

Eメール: aoyagipc@jcom.home.ne.jp
(青柳)

(鎌倉)

FAX: 0467-44-0507 (平倉)

携帯: 090-4602-1190 (平倉)

Eメール: mark_f@zpost.plala.or.jp
(福岡)

<編集後記>

鶴沼のある自治会の会議で、武田薬品新研究所に関する住民の不安について話が出た時、大手一流会社の役員までやって引退した人が「武田は一流企業だから、心配することはない。行政に任せておけばいいんだよ」とわめいた。

古くは足尾銅山鉍毒事件、チツ水俣病、富山県神通川イタイイタイ病など、全て超一流企業と行政に任せておいた結果だったことを思い、あきれ果てたのはつい数ヶ月前のことであった。(國枝)